

環境目標：身近な環境に関心を持ち、持続可能な社会の創り手となる児童の育成

①. 取り組んだ活動内容を箇条書きで記入してください。（必須）

<地球温暖化防止・エネルギー>

活動内容
・グリーンカーテンを育て、室内気温の上昇を抑制し、空調の使用電気量の削減に努めた。
・校内の水道、電気スイッチ付近に節電・節水を呼びかけるポスターを作成した。
・校内の太陽光発電の発電量を知り、エネルギー資源の大切さを実感した。
・「ECO生活2024」や「エコライフDAY&WEEK 埼玉2024」への参加を呼びかけ、長期休業中に各家庭で取り組んでもらった。

<資源循環>

活動内容
・「銀杏プロジェクト」の継続。（学校の銀杏を採取し、商品化した。）
・地域の方の協力でコンポストを作成し、落ち葉を溜めて腐葉土づくりを行った。
・家庭で読まなくなった図書を寄贈してもらい、蔵書を充実させた。
・給食の残菜がでて、フードロスにならないよう呼びかけるポスターを作成した。

<みどり・生物多様性>

活動内容
・学校農園を活用し、野菜を育て、収穫する体験ができた。
・「かみの山再生プロジェクト」参加し、植樹体験をした。
・

②. ①のうち最も力を入れた取り組みについて、詳しく記述してください。(必須)

<記述欄>

力を入れている環境活動

【活動名】 地域と連携した環境活動

【ゼロカーボンシティ実現に向けた工夫】

地域と学校がつながりを持って環境活動を行うことで、児童一人一人が環境意識を持ち、持続可能な地域・社会の創り手になれるようにした。

【活動内容】 ※活動の様子が分かる写真を添付してください。

①「銀杏プロジェクト」



捨てられるだけの校庭の銀杏を 5 年生が拾い集め、地域の方にも手伝ってもらいながら処理し、1 袋 100 円で商品化した。5 年生でポップを作り、授業公開日に特別ブースを設けたり、近隣の無人販売所に置いたりして販売した。

②植樹体験

学区の再開発に伴い、減少した雑木を植え直し、何百年も持続する森をよみがえらせようとする「かみの山再生プロジェクト」に参加した。このプロジェクトは、市街地整備課と連携して行った。学校代表として、低学年の児童と保護者が苗木を植樹した。今後も木々の成長を観察する学習を通して 地域の貴重な自然として見守っていく予定である。



③図書の寄贈

家庭で読まなくなった児童でも読めそうな本の寄贈を呼びかけた所、保護者や地域の方、卒業生などから寄贈があった。これらの本を昇降口付近に自由に読める場所を設置した。

様々なジャンルを気軽に閲覧でき

るので、児童の興味関心の幅を広げることにつながることを期待される。また、家庭で使われなくなったものを再利用できることで物を大切にするメッセージも伝えられた。



